

2018年10月4日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第177回 景気動向調査（7～9月期）

☆相次ぐ災害 勢いを取り戻せるか？・・・売上・収益D I 見通しプラス

☆設備投資 製造業が牽引・・・「実施中・予定あり」24.3%

☆仕入単価の上昇 深刻さ続く・・・問題点「仕入単価の上昇」43.2%

☆求人難が影響か？・・・新規採用「昨年より増員」2.5 割減

●相次ぐ災害 勢いを取り戻せるか？ 売上・収益D I 見通しプラス

総合では、売上D I が+2.6(前回比+0.3ポイント)、収益D I が△0.7(前回比△0.8ポイント)となり、3期連続横ばいで推移していますが、その中であって、**建設業、運輸業では上昇が顕著です**。建設業は消費税率引上げ前の受注、地震や台風による需要増、運輸業は受注増により価格、数量ともに着実に増加しています。

10-12月期は、総合で売上D I、収益D Iともに3.5ポイント上昇と予想しています。災害は相次ぎましたが、年末商戦も含めた売上回復を見込んでいると思われます。

●設備投資 製造業が牽引 「実施中・予定あり」24.3%

設備投資は、総合では「実施中」7.3%(前回比△0.4ポイント)、「予定あり」10.0%(前回比△1.4ポイント)で合計17.3%と前回よりわずかに減少しましたが高水準を維持しています。特に**製造業は24.3%で3.1ポイントも上昇しています**。生産能力が高い設備の導入で、原油や仕入単価上昇分の吸収を企図していると思われます。

●仕入単価の上昇 深刻さ続く 問題点「仕入単価の上昇」43.2%

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が43.2%(前回比△1.9ポイント)で前回調査に引き続き第1位となりました。ガソリン価格の高騰が続き、リーマン・ショック前の水準に近づいていることや、鉄鋼などの原材料や物流コストも高止まりしており、**仕入単価の上昇は中小企業にとっては最重要課題となっています**。

一方で、景気の緩やかな回復により、「売上受注の停滞減少」が低下しましたが、従前からの経営課題である「人手不足」に加え、「競争の激化」が新たな問題点として浮上しており、**中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります**。

●求人難が影響か？ 新規採用「昨年より増員」2.5 割減

来春の「新規採用」について、「採用する」は27.0%、「採用しない」は73.0%となり前年(26.8%)とほぼ同等となりました。採用する企業の内、「昨年より増員」は7.5%で2.5ポイント減少し、業種別では特に運輸業で9.1ポイントも急減しました。

人手不足の中、企業の採用意欲は旺盛ですが、売り手市場で大手企業に採用が流れることが多く、**実際には採用が難しいのではないかと思います**。

調査時点：2018年9月上旬

対象期間：2018年7～9月(実績) 2018年10～12月期(見通し)

対象企業：当金庫お取引先1,786社(大阪府内、尼崎市)

回答企業数：1,490社(回答率83.4%)

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：福井)

TEL:(06)6775-6590 FAX:(06)6772-1630

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp URL:http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター



大阪信用金庫